学校だより

扉【とびら】

宇部市立藤山中学校
１１　月　号
２０２０．１１．２６発行

『バックキャスティング』で行動を起こそう！

校長　海　頭　　巌

例年に比べて、暖かい日が続き、あまり秋らしさを味わう間もなく、冬が訪れてきました。もう、１２月の声が聞こえてきます。コロナの感染予防と共にインフルエンザや風邪への対策も忘れずに生活していきましょう。

先日、生徒向けの『明日の元気のための掲示板』に次の内容を示しました。

バックキャスティング

未来の自分から、現在の自分に問いかけて、これからの手立てを考えていくやり方をバックキャスティングと言います。では、次のことにチャレンジしてみましょう。『期末テストの答案を返された時の自分から、今の自分に一言。さて何と言っていると思いますか。想像してみてください。また、その未来の自分から今の自分にアドバイスをするとしたら、どのような助言をするのでしょうか』。そして今、期末テストの目標達成のために何ができるかをしっかり考えてみましょう。

さて、生徒たちは答案を返された時どんな自分の姿を想像したのでしょう。そして、未来の自分から今の自分にどんなアドバイスをしたのでしょう。プラスのイメージをもち、頑張った自分をほめた人。またマイナスのイメージをもち、落ち込む自分を叱った人や励ました人など、きっと様々だったことでしょう。その想像した自分の姿が、早ければ明日にでも、現実の姿として現れてきます。さあどうなることか・・・。

私たちは何かを変えようとするとき、今の状況からどんな改善ができるかを考えてその改善策を積み上げていきます。この考え方をフォアキャスティング（forecasting）と言います。一方、未来の姿から逆算して、今やるべき対策を考える発想をバックキャスティング（backcasting）と言います。これは何かを創造していくために、何かを壊していくために働きかけることでもあるので、２０３０年までの行動目標の実現に向けたＳＤＧｓの考え方は、まさにバックキャスティングなのです。『今、目標実現のために何ができるのか』といったことがポイントになってきます。

想像力をいかして得られたものは、あくまでも設計図や完成予想図といったものです。しかし、実際に行動して初めて、想像したものが創造されます。想像したものを確実に創造するには、実際に行動を起こす前に『意志力』『覚悟』を手にしておかなければならないと思います。

３年生には、進路説明会で「毎日続けていると、できることが少しずつ増えてきます。目に見えて実力がアップしていなくても、自分にしか分からない変化がたくさん起きてきます。すると『やるべきこと』が『やりたいこと』に変わってきます」と話しました。

４月の自分が通うであろう学校や進路先に向けて、たくましい想像力を発揮して、『あせらす、はやらず、力まず』そして『休まず』勉学に励みましょう。そして、１，２年生は、学年末テストの答案を返してもらうときの自分の姿、より成長した自分を想像して、バックキャスティングしてみましょう。